

〈配点〉

- 1 (1) 2点×7=14点 (2) 2点×10=20点
 2 (1) 2点×6=12点 (2) 2点×4=8点 (3) 2点×3=6点 (4) 2点×5=10点
 (4) ①3点×1=3点 ②4点×1=4点
 3 (1) 2点×8=16点 (2) 3点×3=9点
 4 (1) 2点×7=14点 (2) 2点×4=8点 (3) 3点×2=6点 (4) 2点×7=14点
 5 (1) 2点×6=12点 (2) 2点×1=2点 (3) 2点×1=2点 (4) 3点×3=9点
 6 (1) 2点×6=12点 (2) ①3点×2=6点 ②3点×3=9点

計200点

4	(1)	① 校長	② 組織的	③ 医療機関	④ 事後措置				
		⑤ 管理下	⑥ 役割分担	⑦ 校内研修					
(2)	① ○								
	② ○								
	③ ×	成人は約5cm、小児は胸の厚さの約1/3である。							
	④ ×	小学生以上は成人用を用いる。							
(3)	① ゆっくりとあえぐような呼吸								
	② 心停止の可能性を疑い、胸骨圧迫を開始する。								
(4)	① 29	② 危機管理マニュアル	③ 応急手当	④ 養護教諭					
	⑤ 保護者	⑥ 学校医(教育委員会)	⑦ 教育委員会(学校医)						
5	(1)	① マスク(エプロン)	② エプロン(マスク)	③ 外側	④ 内側				
		⑤ 密封	⑥ 手洗い						
(2)	次亜塩素酸ナトリウム								
	0.1%								
	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず換気をする ・応援体制を組んで対応する 等								
(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・嘔吐物は広範囲に飛んでいる可能性があるため、十分にふき取り、消毒をする。(スプレー式のものは乾燥したウイルスが飛散する恐れがあるため望ましくない。) 等								
	<ul style="list-style-type: none"> ・エプロンなどを外すときに、汚染が広がらないように注意する。エプロンをつけたまま移動しない。 等								
	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず換気をする ・応援体制を組んで対応する 等								
6	(1)	① F	② K	③ E					
		④ G	⑤ H	⑥ J					
(2)	①	<ul style="list-style-type: none"> ・起立性調節障害の可能性を視野に、頭痛の発生機序を理解できるようにする。 ・専門医の受診ができる。 等							
		<ul style="list-style-type: none"> ・痛みや朝起きにくいことなどの、日常生活での不安を解消できるような工夫について理解し、生活できる。 等							
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・生活状況の確認を一緒にを行い、原因となることを考える。 ・思春期に多い起立性調節障害の可能性について考え、チェックシートで確認する。 等							
		<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を振り返り、工夫できることと一緒に探す。 ・坐位や臥位から起立するときはゆっくり起立する。 等							
		<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活をする。 等							